

第53回(2008年)

問10 放射線宿酔に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- A 不穏状態、無気力などの精神症状が現れることがある。
- B 頻脈、不整脈などの心血管症状が現れることがある。
- C 症状の種類は被ばく線量によらない。
- D 被ばく線量が大きいほど発症の時期は早い。

1 ABCのみ 2 ABDのみ 3 ACDのみ 4 BCDのみ 5 ABCDすべて

問11 X線による全身被ばくの影響に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- A 半数致死線量の被ばくでは骨髄死が起こる。
- B 骨髄死は消化管死よりも潜伏期間が長い。
- C 消化管死は骨髄死より低線量で起こる。
- D 中枢神経死は10Gy程度の被ばくで起こる。

1 AとB 2 AとC 3 BとC 4 BとD 5 CとD

問14 放射線被ばくによるリスクに関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- A 絶対リスクモデルでは、リスクは年齢にかかわらず一定とする。
- B 発がんリスクは、大人より小児の方が高い。
- C 男性が胸部に線量計をつけるのは、肺がんのリスクが高いためである。
- D 預託実効線量は、外部被ばくによるリスクの指標となる。

1 ABCのみ 2 ABのみ 3 ADのみ 4 CDのみ 5 BCDのみ

問19 器官形成期にある胎児がγ線に急性被ばくした場合、奇形の発生に関するしきい線量(Gy)として最も近い値は、次のうちどれか。

1 0.005 2 0.02 3 0.1 4 0.5 5 2

問23 胎内被ばくに関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- A 重度精神発達遅滞は受精後26週以降の被ばくで多い。
- B 被ばく線量推定には母親の子宮線量が用いられる。
- C 着床前に被ばくすると奇形の発生頻度が高い。
- D 確定的影響も確率的影響も起こる。

1 AとB 2 AとC 3 BとC 4 BとD 5 CとD

問26 遺伝的影響に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- A 自然発生突然変異率をもとに影響を推定する。
- B 倍加線量の逆数は単位線量当たりの相対突然変異リスクをあらわす。
- C 潜在的回収能補正係数はメンデル型遺伝病にも多因子遺伝病にも用いる。
- D 重篤度は線量に依存する。

1 ABCのみ 2 ABDのみ 3 ACDのみ 4 BCDのみ 5 ABCDすべて